

令和3年度 学生等災害ボランティアリーダー育成事業 活動報告書



事業目的

石川県内の大学では、これまで能登半島地震や東日本大震災を契機に災害ボランティアサークル等が立ち上げられ、それぞれ独自に活動を行っています。

こうした中、地域防災力の更なる向上のため、災害ボランティア活動に積極的に取り組んでいる県内の各大学や企業、NPO、県民ボランティアセンター、社会福祉協議会、日本赤十字社などが連携を密にし、県内での災害に迅速かつ柔軟に対応できる体制を整えるきっかけとなることを目指して、平成24年度から研修等を実施しています。

令和4年3月

実施主体：公益財団法人石川県県民ボランティアセンター
学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会

事業に関するお問い合わせ：

公益財団法人石川県県民ボランティアセンター

石川県県民文化スポーツ部県民交流課内
TEL 076-225-1365 FAX 076-225-1363

学生災害ボランティア講座

災害ボランティアについて広く学び、災害ボランティアのあり方について学生自らが考え、これからの災害ボランティア活動に活かしていくことを目的とした講座を開催しました。

第1回

日程：令和3年7月18日(日) 10時～17時

会場：石川県地場産業振興センター 新館 第10研修室

参加者：学生20名(石川県立看護大学、公立小松大学、金沢工業大学、金沢星稜大学、北陸大学、金沢医科大学、金城大学、金沢医療センター附属金沢看護学校、石川県立保育専門学園)

災害ボランティアとしての大学生の皆さんの力

金沢星稜大学の池田教授より学生等災害ボランティアリーダー育成事業についての趣旨や平時からの団体相互の情報共有と交流・協働体制の必要性を説明いただき、災害時にどうあるべきかどうするべきかを問題提起していただきました。

災害ボランティア活動のはじめかた

実際にボランティアとして活動している日本赤十字社石川県支部の北村さんより、ボランティアを行うまでの流れや経験談等をお話いただきました。発災からのフェーズによってニーズ・活動内容が変化していくこと、被災者とのエピソードや災害ボランティアセンターでの出来事を通してボランティアとしてどうあるべきかを学びました。

災害時の社会福祉協議会の役割

大規模災害時に社会福祉協議会が設置する「災害ボランティアセンター」について学んでいただきました。

県社会福祉協議会の古川さんからは災害時と平時はつながっており、災害時にスムーズに活動を行うためには平時からのボラン

ティア活動が大切であること、被災された方に寄り添った支援を大切に考えている等のお話がありました。



災害時の衛生環境と応急処置法

災害時のトイレにまつわる話や、トイレの使い方など学びました。

ストッキングを使った腕の固定、タオルを使った止血方法など身近なものでできる応急処置方法はじめ、土のう袋の使い方や車いすの運び方などを学びました。

参加者の声

車椅子の運び方や介助を受ける方の気持ちを知ることができてよかった。



車椅子の方の運び方について説明しています

タオルなどを使った止血方法や土のう袋の結び方を家族に教えながらもう一度やってみたい。



土のう袋の結び方について実践!

東日本大震災語り部講話

東日本大震災を経験した後藤伸太郎氏とオンラインでつなぎ、震災当時の状況や現在の状況、実際に行った活動について、お話を伺いました。

今災害が起こったら、大学生の自分に何ができるのか、何をすると人のためになるのか等を考えさせられました。

実際に被災された方の生の声がきけて良かった。



被災者とのコミュニケーションについて学ぼう

災害時の被災者の心理状態と多面的なケアについて、石川県立看護大学の武山特任教授よりお話しいただきました。

グループワークでは、参加者同士で、お互いに質問をしあったり、質問の形を変えて聞いたりを実践しました。



災害現場において現地の方とどう接するべきか心の状態などを学んだことで、相手に寄り添ったサポートにつなげたいと思った。

コミュニケーションの取り方は、災害時だけでなく、平時にも活かせると思った。

閉じた質問、開かれた質問の2つがあることを知り、意識してみたいと思った。

第2回

日程：令和3年11月27日(土) 13時30分～16時45分
会場：石川県地場産業振興センター 新館 第10研修室
参加者：学生等14名(金沢大学、石川県立看護大学、金城大学)

災害支援・防災教育コーディネーター／社会福祉士の宮崎賢哉氏を講師にお招きし、グループワークを中心に災害ボランティアについて学びました。



災害ボランティアケースワーク

「状況判断」「決断・意思決定」「コミュニケーション」等を意識して行うゲームを行いました。質問に対し、YesまたはNoを選択します。「多数派」または「オンリーワン」になるとポイントがもらえます。選択した理由についてグループで話し合い、他者の考えや意見を理解しました。

【問題例】(立場)復興支援に取り組む学生団体のリーダー
災害VCスタッフの方から「ボランティア向けの仮設トイレ清掃をお願いしたい。」と依頼された。しかし複数のメンバーから「被災された方と接する活動がしたい。」と言われた。トイレの数は多く、全員で活動しても足りないくらい。
…依頼に応じる？

グループ内に他の大学の人や職業の方がいて、それぞれの視点から新鮮な意見を聞くことができ、貴重な経験をする事ができた。



法政大学「チーム・オレンジ」の活動紹介

法政大学「チーム・オレンジ」のみなさんとオンラインでつなぎ、防災キャンプ等の活動についてご紹介いただきました。また、参加者のみなさんとオンライン版防災クイズカルタの体験も行いました。

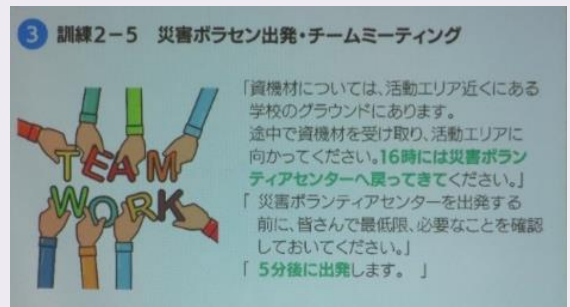


防災クイズカルタの様子

災害時の組織活動とリーダーシップ

金沢市で大規模な風水害が発生し、現地の社会福祉協議会が開設する災害ボランティアセンターに集まった参加者でグループを組み、活動を行うという想定で行いました。

リーダーを中心に、活動中に起こる様々な課題について、参加者同士が意見交換を行い、リーダーによる意思決定を行うなどチームのあり方やリーダーシップについて学びました。



リーダーの役をやってみて、Yes/Noを選ぶことの難しさと責任がわかった。

具体的な行動のイメージをすることができ、大変勉強になった。

実際の状況を考えながら話し合うことで、問題点や決定の難しさが想像できた。

災害と企業ボランティアセミナー

県内企業を対象に、災害ボランティア活動への理解を促進し、平時の企業活動と災害ボランティアとの関わりを考えてもらうきっかけとするセミナーを開催しました。

日程：令和3年7月19日(月) 13時30分～15時00分
会場：石川県地場産業振興センター 新館 第10研修室
参加者：12企業・団体等 18名



災害時の石川県の体制や社会福祉協議会の役割、災害ボランティアについて学んでいただきました。

コマニー株式会社の中西さんをお招きし、東日本大震災被災地や令和元年東日本台風で被害のあった長野での活動事例、コロナ禍における支援活動についてご紹介いただきました。

企業の活動事例紹介があったので、自社運用する際の参考になった。

災害ボランティアの体制やどこに連絡したらいいかが参考になった。

学生等災害ボランティアリーダー育成事業10年を迎えて ～事業のあゆみと成果～

(県内外の災害)

(県の動き)

H19.3
能登半島地震

H20.7
浅野川水害

H23.3
東日本大震災

H28.4
熊本地震

H30.7
西日本豪雨

R1.10
東日本台風

H23.3～4
ボランティア
輸送バスの運行

H24.4
本事業開始

H27.6
災害ボランティア
バンクの設置

H28.4
災害ボランティア
体験入門講座の
開始

H30.7～8
ボランティア
輸送バスの運行

R1.10～12
ボランティア
輸送バスの運行

能登半島地震や東日本大震災を契機として、県内の大学等では、災害ボランティアサークル等が多数立ち上げられ、それぞれ独自に活動を行っていた。

学生等災害ボランティアリーダー育成事業が始まる (H24～)

学生向け

災害ボランティア
の基礎を学ぶ



いしかわシティカレッジ
「地域と災害」開講
(H24～H27)



災害ボランティア研修
を開催 (H28～)

東北の被災地を
見る・聴く



宮城県石巻市等での災害ボラン
ティア実践活動 (H24～H27)

過去の災害を知り、
実践的なスキルを学ぶ



災害ボランティア宿泊研修
の開催 (H28～R1)

学生・県民向け

地域で災害支援の
課題を共有する



災害ボランティア
きずなフォーラムの開催
(H24～H30)

いしかわ学生防災フォー
ラムの開催 (R1)

企業向け

災害支援への
理解を深める



災害と企業ボランティア
セミナーの開催 (H25～)

いつ起こるか分からない
災害に備える！

地球環境の変化に伴い世界中で災害が多発しており、日本においてもこの10年間で多くの災害が発生し、今後の大災害発生の危険性も否定できない状況です。石川県は21高等教育機関が集積する“学都”であり、能登半島地震や東日本大震災を契機に災害ボランティア活動に積極的に取り組んでいる県内各大学や企業、NPOなど、そして県民ボランティアセンター、社会福祉協議会、日本赤十字社が連携を密にし、平時からのface to faceの相互・協働による災害ボランティアネットワークの構築をめざし、2012 (H24) 年度より本事業が継続実施されております。

これまで、学生向けのいしかわシティカレッジや災害ボランティア研修、東日本大震災被災地等での災害ボランティア実践研修、災害ボランティア宿泊研修をはじめ、災害ボランティアきずなフォーラムやいしかわ学生防災フォーラムを開催し、地域で災害支援の課題を学生や県民の皆様と共有してきました。加えて、地域での企業の災害ボランティア力の活用・育成をめざして災害と企業ボランティアセミナーも継続開催してきております。なお、県外での発災に対しても災害ボランティアとして複数の本研修受講学生が参加しており、災害ボランティアについての学び、連携体制推進の1つの形ともいえます。今後、学生等への更なる防災教育そして災害ボランティア推進が期待され、地域での連携・協働体制が重要です。



委員長
池田 幸應

今年度事業の成果

県内学生を対象とした研修では、2年ぶりに研修会場での開催となりました。オンラインを活用することで、なかなか聞く機会のない被災された方のお話をいただくこともできました。

企業のセミナーでは昨年に引き続きコマニー株式会社の活動事例を紹介させていただきましたが、講義のあとには参加者から多くの質問が出るなど、とても有意義なセミナーとなりました。

災害ボランティアの基本知識・心構えや被災地での活動事例等の講義等を通じて、災害ボランティア活動の普及と啓発が図られたと感じています。

引き続き、これからの時代を担う学生や企業等を対象とした研修の実施を通じて、災害時に迅速かつ柔軟に対応できる体制を整えていきたいと考えています。

関係機関・関係者・協力者

❖ 学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会

複数の大学や団体に所属するメンバーにより事業内容の検討及び結果の検証を行っています。

【委員長】池田 幸應	金沢星稜大学 人間科学部 教授
【委員】武山 雅志	石川県立看護大学 特任教授
佐藤 大介	公立小松大学 保健医療学部看護学科 准教授
古川 浩子	石川県社会福祉協議会 ボランティアセンター 所長
北村 裕一	日本赤十字社石川県支部 防災ボランティアリーダー
山岸 小百合	石川県県民ボランティアセンター 専務理事兼事務局長

❖ 研修にご協力いただいたみなさま

<災害ボランティア講座>

南三陸町観光協会のみなさま

後藤 伸太郎 様

宮崎 賢哉 様

法政大学「チーム・オレンジ」のみなさま

<災害と企業ボランティアセミナー>

コマニー株式会社 中西 幸博 様

❖ 後援

石川県、(社福)石川県社会福祉協議会、
日本赤十字社石川県支部、
(公社)大学コンソーシアム石川

事業の実施に際しては、
多大なご協力をいただき
ありがとうございました。



研究会ホームページのお知らせ

学生等災害ボランティアリーダー育成事業研究会ホームページでは、研修のお知らせや事業の様子などを随時更新しています。



災害ボランティアバンクのお知らせ

石川県では、災害時にボランティア活動を行う意思のある個人・団体で事前に登録していただく方を募集しています。

災害ボランティアバンクに登録された方には、災害に関する研修会や、被災地のボランティア募集情報などをLINEまたはメールでお知らせいたします。

石川県災害ボランティアバンク

検索

URL
<http://saivolustudy.sub.jp/>

石川 学生ボラ研究会

検索



詳細、登録はこちら→

